

暮らし

質問

70代の男性です。みぞおちに違和感があり、近くの病院で内視鏡検査を受けたところ、食道がんといわれ内視鏡治療を勧められました。内視鏡治療とはどんなものでしょうか。他にどのような治療がありますか。

がん何でもQ&A

答え

食道がんは主に、高齢の男性

で▽ヘビースモーカー▽飲酒量の多い▽熱いものや刺激の強い食事が好きな人▽がかりやすいといわれています。

症状は、早期がんではほとんどみられません。時に質問者のように違和感があったり、胸が染みる感じがしたりして発見



矢野 充保

徳島県立中央病院
臨床腫瘍センター長

食道がんの内視鏡治療

されます。さらに進行すると胸のつかえた感じや痛みが出現します。

食道は内側から粘膜、粘膜炎、粘膜炎下層、固有筋層、外膜の5層に分かれています。がんは通常、粘膜にでき、徐々に外側に向かって発育していくため、進行具合や転移によってステージ分けされます。

食道がんは一般に予後が悪いとされ、5年後の生存率は平均25%ほどといわれています。その予後もステージが進むに従って悪くなります。

がんが粘膜にとどまり、リンパ節や他の臓器、胸膜、腹膜に転移していない状態がステージ0で、早期がんと呼ばれます。この状態であれば内視鏡治療の対象になります。質問の方も内視鏡治療を勧められたとのこと、早期がんの可能性がある

と思われる。

この状態で発見される病変は、発赤といった色調の変化で発見されることが多く、バリウム検査などの発見は困難で、内視鏡検査が有用とされています。最近では細い(経鼻)内視鏡が普及しつつあり、早い時期のがんでも見つかるようになってきました。

内視鏡治療(粘膜下層剥離術)は、入院した上で、内視鏡を使って病変を周囲から少しずつ時間をかけてはぎ取っていきます(写真参照)。病変は組織検査され、正確な術後診断で評価されます。がんが粘膜内で治

まり早期がんと診断されれば、ほぼ100%完治が期待できます。

がんが粘膜下層より深部に広がっていたり、リンパ節に転移したりしている状態になるとステージ1〜3で、筋層など深部へ行くほどステージが上がります。この時期での治療は、外科手術や化学療法、放射線治療の組み合わせが多く行われています。外科手術は最近、胸腔鏡を使った傷の小さい縮小手術も普及してきました。



内視鏡治療で剥離されるがんの病変

合は、化学療法や放射線治療が主になってきます。

食道がんは、表面の粘膜にできる「扁平上皮がん」が最も多く、日本では90%を占めています。残りは胃や

質問募集 がんに関する悩みに「徳島がん対策センター」がお答えします。質問内容を詳しく書き、住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記し、〒770-0857 徳島新聞社文化部「がん相談」係へ。紙上に住所、氏名、電話番号は掲載しません。同センター(電0888(6333)94388)でも平日午前8時半〜午後5時に受け付けています。

大腸がんと同じように、分泌物を出す上皮にできる「腺がん」からなっています。扁平上皮がんは、がんの中でも放射線治療や化学療法がよく効くタイプで、治療成績は最近目覚ましく進歩しています。

▽確定診断が怖い▽手術といわれるのが怖い▽仕事が休めないなどの理由で受診をためらう方もいるかもしれませんが、早期に適切な診断を受けることがより良い治療につながりますので、受診をお勧めします。

早期なら完治も期待